

佐賀県研究成果情報（作成 2022年3月）

[情報名] 夏まき冬どりタマネギで品種「春いちばん」は9月上旬定植遅れでも収量が多い

[要約] 夏まき冬どりタマネギの9月上旬の遅植えにおいて、品種「春いちばん」は慣行品種「シャルム」より収量が多く、定植遅れに対応できる。

[キーワード] 冬どりタマネギ、品種比較、定植遅れ

[担当] 上場営農センター・研究部・畑作・野菜研究担当

[連絡先] 0955-82-1930・uwabaeinousenta@pref.saga.lg.jp

[分類] 普及

[部会名] 上場営農専門部会

[専門] 栽培

[背景・ねらい]

冬どりタマネギの栽培面積は、高単価により増加傾向にあるが、慣行品種「シャルム」では降雨による定植遅れや初期生育不良による青立ちや小玉化などで、収量が大きく減少している。そこで、夏まき冬どりタマネギの定植遅れの9月上旬定植にも対応した適品種を選定することで、作期拡大による安定生産を図る。

[成果の内容]

1. 夏まき冬どりタマネギの9月上旬定植において、「春いちばん」の商品収量は、「トップゴールド305」、「博多こがねEX」と比較して同等、慣行品種「シャルム」と比較して約20%増収する（表1、図1）。
2. 9月上旬定植において、「春いちばん」の1球重は、「トップゴールド305」、「博多こがねEX」と同等、「シャルム」と比較して重い（表1、図1）。
3. 9月上旬定植において、「春いちばん」は、結球倒伏率、商品化率および収量が3か年で最も安定して優れ、定植遅れに対応できる（表1、図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 慣行品種「シャルム」の定植適期は、佐賀県上場地域では8月25日前後である。
2. 夏まき冬どりタマネギにおける「春いちばん」、「トップゴールド305」、「博多こがねEX」の慣行定植日での商品収量は「シャルム」と同程度である（データ略）。
3. 「春いちばん」の早植えは、小玉となり収量が減少するため、8月25日以前に定植を行わない。
4. 播種日は2018年および2020年が6月29日、2019年が6月30日、定植日は2018年および2019年が9月5日、2020年が9月4日、収穫日は2018年が12月21日、2019年が12月17日、2020年が12月8日で行った。
5. 播種後10日前後から40日間、短日処理（5～6時および17～20時）を実施した（特許番号：特許第5102914号、発明の名称：「タマネギの栽培方法及びタマネギ」）。
6. 結球倒伏率が高いと、青立ち株率は低くなる。

[具体的なデータ]

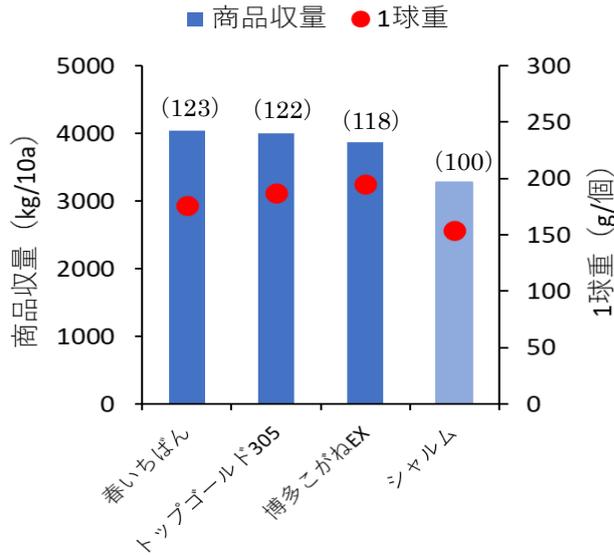


図1 夏まき冬どりタマネギ各品種における9月上旬定植での商品収量と1球重

注1) 2018～2020年の3か年の平均
注2) ()内数値は、商品収量の対「シャルム」

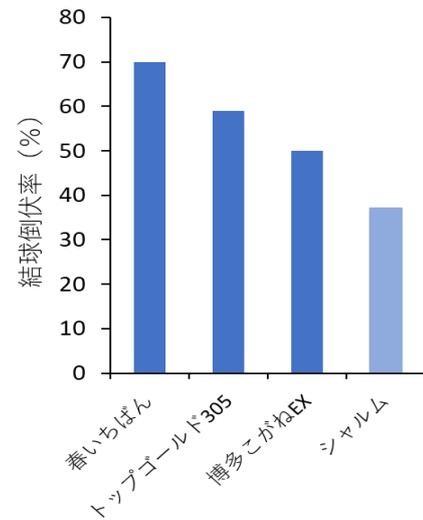


図2 夏まき冬どりタマネギ各品種における9月上旬定植での結球倒伏率

注1) 2018～2020年の3か年の平均

表1 夏まき冬どりタマネギ各品種における9月上旬定植での収量性

年度	品種	結球倒伏率 (%)	商品化率 (%)	1球重 (g/個)	商品収量 (kg/10a)
2018	春いちばん	88 a ^{注2)}	93 ab	218	5561
	トップゴールド305	95 a	96 a	263	6646
	博多こがねEX	81 a	85 ab	259	5949
	シャルム	46 b	78 b	216	4591
	有意性 ^{注3)}	**	*	-	n.s.
2019	春いちばん	77	89	156	3642
	トップゴールド305	49	66	163	2841
	博多こがねEX	56	69	186	3339
	シャルム	56	85	137	3131
	有意性	n.s.	n.s.	-	n.s.
2020	春いちばん	45 a	74	155	2911
	トップゴールド305	33 ab	71	136	2494
	博多こがねEX	14 b	62	140	2323
	シャルム	9 b	72	110	2109
	有意性	**	n.s.	-	n.s.

注1) 試験規模：2018年；4.35㎡ (1.45m×3m) ×2反復、2019～2020年；4.35㎡ (1.45m×3 m) ×3反復

注2) 異なる文字間にはTukeyの多重検定により5%水準で有意差あり

注3) 有意性：**は1%、*は5%水準で有意、n. s.は有意差なし、-は検定なし

注4) 2020年は9月7日の台風10号の影響を受けている

注5) 結球倒伏率および商品化率は欠株を除く

[その他]

研究課題名：冬どりタマネギの作期拡大による安定生産

予算区分：県単

研究期間：2018～2020年度

研究担当者：伊東寛史、平野優徳、原田克哉、浦田貴子